

2022年度(令和4年度)

学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自:2021年(令和3年)4月 1日

至:2022年(令和4年)3月31日

2023年(令和5年)3月



学校法人駿河台学園 駿台トラベルアンドホテル専門学校

学校関係者評価委員会

目次

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針	1頁
1.2 学校関係者名簿	1頁
1.3 実施状況	2頁
1.4 評価方法	3頁

2. 報告書について

2.1 表の見方	5頁
----------	----

3. 評価結果報告書

3.1 総評	7頁
3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組)	9頁

4. 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第6回	10頁
---------	-----

I. 概要と実施状況について

I-1 目的と基本方針

学校関係者評価は、学校評価という協働作業を通じて、学校と学校の関係者（企業、協会、学校、OB等）がお互いの理解を深めることを目的とする。すなわち、学校評価の基本である学校の自己評価が、学校に関係する方々から違和感なく受け入れられ、自己評価の客観性と透明性を高めることにある。また、共に学生の将来を考え、それぞれの立場や視点から意見を出し合い、よりよい学校作りに寄与することを基本方針とする。

I-2 学校関係者名簿

学校関係者評価は、学識経験者、関係業界、高等学校、卒業生、保護者により構成された下記の委員に委嘱した。

氏名	属性	選定種別	所属
かとう かつし 加藤 克志	業界団体	校長推薦	公益社団法人 日本観光振興協会 総務・渉外部門 総務部長
そのべ かずき 園辺 一貴	企業	関連企業	株式会社エイチ・アイ・エス 法人営業本部 関東業務グループ統括部長
くぼ つよし 久保 剛	企業	業界関連	株式会社近畿日本ツーリスト 統合コンタクトセンター 上席副支店長
あおの まゆみ 青野 まゆみ	卒業生	卒業生	テック航空サービス株式会社 管理統括部長 総務・業務・人事部
つつい ようすけ 筒井 揚介	高 校	高 校	駿台甲府高等学校 副校長
すずき たかこ 鈴木 貴子	保護者	保護者	トラベル学科現在籍生の保護者

1-3 実施状況

第7回目は、自己評価の説明後、前回の学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、更に検討すべき事案についてご討議いただきました。実施内容は下表のとおりです。

会議名	令和4年度 第7回学校関係者評価委員会
開催日時	令和4年 11 月24日(木) 13:30~15:30(120分)
場所	本校 本部校舎 306 号教室
出席者	① 企業・有識者委員： 加藤、園辺、久保、青野、鈴木、筒井以上 6 委員（音順、敬称略、以下同） ② 本校委員：塚原（校長）、納屋（教務部長代理）、大野（教務部次長）、南（教務課長） 渡辺隆（教務部・就職指導担当）、渡辺千（教務部）、漆原（教務部） 竹谷（トラベル学科長） ③ 事務局：司会…納屋 書記…漆原、渡辺千 写真撮影…南
欠席	なし
配布資料	☐ 第7回学校関係者評価進行表（本プリント）、「職業実践専門課程とは」レジュメ ☐ 前回配布済み…（令和4年度 学校自己評価報告書・学校関係者評価シート）
議題等	1. 挨拶（塚原） 委員会出席に対するお礼を述べると共に、現在の学内状況について説明し、前回の会議を踏まえ、専門学校として社会要請に応えるための施策について議論いただきたい旨を依頼し、開会挨拶とした。 2. 出席者紹介と委員会成立の宣言（納屋） （ア）事務局より有識者委員 6 名と本校委員8名を紹介した。 （イ）学校評価実施規定 第 13 条 4 に基づき過半数の出席が認められたため、委員会の開催を宣言した。 3. 前回委員会での課題、および今後の改善方策を基に、各基準の評価を確認した（納屋）。 基準 1 教育理念・目的・育成人材、基準 2 学校運営、基準 3 教育活動 基準 4 学修成果、基準 5 学生支援、基準 6 教育環境 基準 7 学生の募集と受入れ、基準 8 財務、基準 9 法令等の遵守 基準 10 社会貢献・地域貢献、基準 4. 学校自己評価中間報告に対し、評価シートに基づく討議。 各委員が事前記入した各基準の点検項目に対する評価シートを基に、委員から意見詳細を聞き取り、本校委員がそれに回答する形式で会議を進めた。 5. 学校関係者評価委員会の次年度の予定。 評価シート提出期限は 2022年 12月 10日とする。次回開催は 2023年 11 月下旬予定。 6. 解散

1-4 評価方法

1) 学内自己点検・自己評価の実施

学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って、令和4年度自己評価を実施した。自己評価の点検項目は10分類37項目である。『2022年度(令和4年度)学校自己評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント(適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0)を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員会に提出した。

2) 学内自己点検・自己評価の報告

学校関係者評価委員会では、学内委員から学校関係者に対し、『2022年度(令和4年度)学校自己評価報告書』を用いて、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況、および評価ポイント、根拠、課題、今後の改善方法について説明を行なった。今年度は、学校関係者評価委員の任期切替後の初回実施という事もあり、全ての評価項目の説明を行った。

学校自己評価報告書<記述例> 本表は以下のように構成しています。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-1～1-5】理念・目的・育成人材像

[チェック項目]

- ☐ 理念・目的・育成人材像は文章化するなど明確に定められているか
- ☐ 学校における職業教育の特色はあるか

本校は1980年(昭和55年)の学校創立以来、創設者の理念すなわち駿河台学園の理念である「愛情教育」を学校の理念としてきました。学問に対するひたむきさと～

項番	点検項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0
【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
【1-2】	学校における職業教育の特色はあるか	④ 3 2 1 0
【1-3】	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1 0
【1-4】	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0
【1-5】	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1 0

1.課題

[]

2.今後の改善方策

[]

3.特記事項

[]

➡ ①大項目

➡ ②中項目

➡ ③中項目における本校で
チェックをすべき項目。

④中項目の点検項目に対する
本校の取り組み内容

➡ ⑤中項目について自己評価
を行った結果に対する記載

- 1.評価委員が挙げた課題
- 2.今後の改善方法
- 3.特に記載が必要な事項

3) 学校自己評価の評価

学校関係者は、本校の自己評価の説明を受け、内容と評価方法を理解した上で、本校が行った自己評価結果について「適切」「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 記入シート」のコメント欄に記載した。

本記入シートは、委員会終了後に学校関係者へ郵送、またはメールにて回収し、評価一覧にまとめた。

<記入例>

学校関係者評価シート 自己評価の結果について、ご評価をお願いします。該当に○を記入ください。		
評価者氏名		
本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画 基準1 教育理念・目的・育成人材像 点検項目【1-1】 理念・目的・育成人材像		
評価結果	○ 適切	不適切
自由記述欄 (お気づきの点やご要望を記述してください)		

2. 報告書について

2.1 表の見方

自己評価：学内自己評価を取りまとめた結果。

(適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0)

第7回の委員会での学校関係者の提案、および評価シート記載内容。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提案	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	番号	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-3】	未来構想	3	①社会を踏まえた学校の将来構想の今後の改善方策については、今まさに各企業がAI・ロボット等を活用し益々オートメーション化(自動化)している中だからこそ、より一層人と人とのコミュニケーション力の強化が必要。次年度は評価4「適切」となるように将来構想を明確にして励んでほしい。(小林委員) ②一般教養を高めるためのトレーニングであるステップトレーニングというのは留学生にも実施しているか。(矢澤委員)	①まだ方針が曖昧な部分が多く、今後の高校カリキュラムが具体化する中で、方向性がはっきり見えてきてから、学科長会議で話し合って結論を出していく。 ②留学生は、日本語能力の基礎力のアップがまず優先される為、現時点では、日本人だけ実施している。留学生には入学前の日本語補習を実施して、
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている(100%)	

学校関係者の提案に対する、本校の今後の取り組み内容（提案の丸付き数字に対応して記載）。

評価提案の（ ）内は、各提案に対する学校関係者の比率（評価シートより集計）。

3. 評価結果報告書

3-1 総 評

本校は平成31年(2019年)3月5日に職業実践専門課程の認定を受けて以降、認定校としてふさわしい学校として評価をいただけるよう、また、委員の皆様のご意見を堅実に実現できるよう努力を続けてまいりました。

学校関係者評価委員の方々も4年目となり、本校の自己評価が、昨年度の指摘事項を反映されているかなど、メンバーから厳しいご意見があるかと心配しておりましたが、「外部委員の指摘内容を堅実に取り組んでいる」との評価をいただき安堵いたしました。今後も学校関係者評価委員会を実施することで、本校の教育内容の客観性や経営内容の透明性を高め、本校教職員一人ひとりが教育の質の向上に向けて取り組んでまいります。なお、この第7回委員会では、各委員から評価終了との判断を頂きましたので、本年度の委員会は今回で終了とし、次回を2023年度11月に開催することといたします。

新型コロナウイルスの感染拡大も収束に向かいつつありますが、まだまだ観光産業の回復には少し時間が必要と思われます。しかし、ピンチをチャンスに変えるべく、観光業に携わる人間は既に、これまでとは異なるアイデアや戦略で、新しい世界を切り開いています。新しい観光サービス業のスタイルを創造し、観光業への就職を志す若い人材には柔軟な思考と行動力が要求されます。

その為にも、業界の皆様からの新しい発想や助言をいただきながら、新しい観光サービス業に対応したカリキュラムを設定し、「新しい観光サービス業」で活躍できる人材育成に邁進する所存です。この取り組みを真摯に続けることを誓い、学校関係者評価委員会の評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会

校長 塚原 慶一郎

3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組み)

2022年度(令和4年度) 学校関係者評価報告書(本年度定めた重要項目、基準1~4)

項目	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
	番号	項目名			
本年度定めた重点事項	【1】	新型コロナウイルス感染予防対策を注意しながら、対面授業を中心とした学校運営	4	適性に運用されている。 高校時代にコロナ禍の生活を強いられ、教員や学生との対面授業や課外活動での十分なコミュニケーション活動が減少している。(塚原) 自分で考え、気付くことを重要視している点や、スマートフォンによる企業目線の動画編集の取組は評価できる(園辺)	大人とのコミュニケーション能力を高め、就職活動に生かせるよう対面授業と課外活動を工夫しながら引き続き今後も継続する。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運用している。 育成人材像としては、観光の本質的な意義を理解してもらわないと「ホスピタリティ」が提供できないので、「ホスピタリティ・マインド」を学ぶ・考える授業を実施していることは重要である。(加藤)	「ホスピタリティ・マインド」を学ぶ・考える授業を今後も継続していく。
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運用されている。 観光に対する評価はコロナ禍により著しく低下し、従事者が減少しているが、観光が日本経済における重要産業であることを再認識し、その意義・役割についての理解促進を強化する取組を求める(加藤)。	
		【1-3】	社会ニーズを踏まえた将来構想	3	適切に運用している。 アフターコロナ下の観光のあり方を学生に教えて欲しい。(筒井) WEBへの移行が増えている為、その能力開発が必要。(久保) 就職してからでも対応できる臨機応変な能力を育成して欲しい(鈴木) PCに対応する授業は出来ているが、スマホを使った授業がまだまだ出来ていない。(渡辺隆)	アフターコロナを意識して情報機器の活用は、パソコン技術やインターネット活用方法に重点をおいた教育への取り組み必要。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運用されている。	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運用されている。 スマートフォンを利用した動画作成や編集を授業で扱っていることは、弊社の業務には直結しないが興味深い(青野)	
2	学校運営	【2-2】	運営方針	4	適切に運用している。 学生確保の取組は、観光の意義・役割についての理解促進を図りつつ、長期的に進める必要がある(加藤)。 コロナ禍において観光業を不安視し、進路の選択肢から外す学生もいるだろうが、コロナが日常になった時に選ばれる業界になるよう、観光業界で働く者として頑張りたい(久保)。 旅行業界がコロナ禍により受けた打撃は大きく、報道も先行きが悲観的。学生獲得には課題を感じる(青野)。	
		【2-3】	事業計画	3	適切に運用されている。 システム投資が減少し、新規採用が見送られている(久保) 2023年の新規採用が見送られ、2024年は検討中。(園辺) 2023年新規採用なし(青野) 他業種に優秀な人材が流れている。 成長産業である観光業界が働く意欲を持った学生に選ばれ、育て行かなければならない。(加藤)	学生募集が厳しい状況から、新入生への取り組みには、収支を見ながらの収入に見合った事業運営を継続する。
		【2-4】	運営組織	4	適切に運用されている。	
		【2-5】	人事・給与制度	3	適切に運用されている。	定年退職者が増えることから新旧交代ができるよう、ベテランは若手に直接指導できる体制を整える。
		【2-6】	意思決定システム	4	適切に運用されている。	
		【2-7】	情報システム	3	適切に運用されている。 学校システムについては2021年度に大きく修正した。(渡辺千)	2022年度からはシステム改訂にお金をかけずに使いこなせるよう進めていく。
		【2-8】	目標の設定	3	適切に運用されている。	
3	教育活動	【3-9】	教育方法・評価等	4	適切に運用されている。 何故、検定試験を受験しなければいけないのか、検定試験の役割が学生に浸透していないことが課題になっている。(南)	就職における検定試験の取得の意義と就職後の意識づけをおこない、担任が学生の学習状況を把握し、目標数値を掲示する。
		【3-10】	成績評価・単位認定等	3	適切に運用されている。	
		【3-11】	資格・免許取得の指導体制	4	適切に運用されている。 国内観光の振興を図っていくには、インバウンドのお客様に頼らざるを得ないので、英語力がないと誘致に繋がらないので、実践的な英語力を高める教育が必要と思われる。(加藤) 授業は資格取得に向けた土台作り過ぎず、合格するためには自宅学習が必須であることの意識付けが必要(久保)。 学生時代の早期に検定・資格の重要性を理解させ、取得に取り組ませる対策が必要(青野)。	実践的な英語力の強化する。
		【3-12】	教員・教員組織	4	適切に運用されている。	
		【4-13】	就職率	3	適切に運用されている。 コロナ禍において、全体の就職率約95%の結果を残した。(高島)	
4	学修成果	【4-14】	資格・免許の取得率	3	適切に運用されている。 就活に有利だからではなく、より良い仕事をするために役立つ資格を取得するという考え方が大切(園辺)。 当社は今年、人事制度を変更し、昇進条件として指定資格取得の適用を決定した。対象資格はTOEIC600点以上、旅行業務取扱管理者、ITパスポート検定、ビジネス会計検定2級などで。目指す会社で働くうえで必要な資格や、人事制度等について情報収集し、就職後も資格が必要である指導してほしい。(久保)	内定後に資格取得の意欲が薄れ、合格率が上がらない傾向があるが、企業風土も変わってきており、就職後の昇格にも影響する点も視野に資格取得の必要性を定期的に説明する時間を設定し、実社会に出てからの武器となる力を備えさせたい。
		【4-15】	卒業生の社会的評価	4	適切に運用されている。 学友との絆を大切に必要性を指導してほしい。将来、企業等で中核人材になった際に、学生時代の人脈が必要になる場合がある(加藤)。	

2022年度（令和4年度）学校関係者評価報告書（基準5～10）

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
5	学生支援	【5-16】	就職等進路	4	適切に運用されている。	
		【5-17】	中途退学への対応	4	適切に運用されている。	
		【5-18】	学生相談	4	適切に運用されている。	
		【5-19】	学生生活	4	適切に運用されている。	
		【5-20】	保護者との連携	4	適切に運用されている。	
		【5-21】	卒業生・社会人	3	学校公式LINE、ツイッター、インスタ等のSNSを積極的に取り入れてはどうか。学校や同窓会情報の発信が可能。卒業生に対する呼びかけなどはメールより可能性があるのではないかと（久保）	転職が多い観光サービス業の特徴もあり、卒業後の追跡が難しくなっている。SNSを活用し卒業生との繋がりを検討していく。
6	教育環境	【6-22】	施設・設備等	4	適切に運用されている。 補修・改修については財務状況などを考慮し、優先順位を付けて年度ごとに予算を立てて実施をしている。（漆原）	
		【6-23】	学外実習、インターンシップ等	4	適切に運用されている。 コロナ禍の影響を受け、旅行会社の企業実習は受け入れがほとんどない状態だったが、10月から1年生限定で企業実習に参加することが出来ている。来年4月以降については基本的には継続をお願いする方向で動いている。（渡辺隆）	
		【6-24】	防災・安全管理	3	適切に運用されている。	教職員も座学で実施していますが、今後は実際の避難訓練のような具体性のあるものを実施してまいりたい。
7	学生の募集と受け入れ	【7-25】	学生募集活動	4	適切に運用されている。 観光業界は、コロナ禍により強い敬遠傾向にあるが、国が成長分野と位置付ける重要産業だ。消費者が納得できる情報発信を、学生・卒業生が担えないだろうか（加藤） 学生が作成したYouTube動画等を掲載すれば、学校生活の魅力だけでなく、動画作成技術も学習できることをさりげなくアピールできる（久保）。	学内の活動が見れる素材をInstagramなどにタイムリーに掲載し、フォロワー数の拡大を図る。留学生に対しては、例年出願してくる日本語学校を重点に情報収集を行い、募集営業を図る。
		【7-26】	入学選考	4	適切に運用されている。	
		【7-27】	学納金	4	適切に運用されている。	
		【8-28】	財務基盤	4	適切に運用されている。	物価高騰に伴い、次年度以降厳しい状況が予想される為、一層の経費削減を心掛ける
8	財務	【8-29】	予算・収支計画	4	適切に運用されている。 節電以外の削減策として、HIS社では電話を固定からIPへの切り替える等の経費削減を実施した（園辺）。	節電する為にも電気使用量などを数字で比較できるように見える化を検討していきたい。
		【8-30】	監査	4	適切に運用されている。	
		【8-31】	財務情報の公開	4	適切に運用されている。	
		【9-32】	関係法令、設置基準等の遵守	4	適切に運用されている。 社会人に必要な知識の一環として、PマークやISO規格の取得意義を学生に説明してはどうか（久保）。	
9	法令等の遵守	【9-33】	個人情報保護	4	適切に運用されている。	
		【9-34】	学校評価	3	適切に運用されている。 年2回、学生から授業アンケートを実施しており、各授業の先生、教務関係、就職関係、学校全般について聞いている。（大野）	
		【9-35】	教育情報の公開	4	適切に運用されている。	
		【10-36-1】	社会貢献・地域貢献	3	適切に運用されている。 社会貢献意識の高い人材育成に向け、災害時ボランティア活動等を公欠扱いにする事も必要と考える（加藤）	社会貢献、地域貢献については、コロナが収束した場合には、無理のない範囲で、出来ることから始める。
10	社会貢献・地域貢献	【10-36-2】	国際交流	4	適切に運用されている。	
		【10-37-1】	ボランティア活動	3	適切に運用されている。	社会貢献、ボランティア活動はコロナ収束を待ち、無理のない範囲で可能なことから始める。

総合評価 【自己評価の確認および次年度重点項目の設定】

本校の自己評価については、学校関係者から全て『適切に運用されている』との評価を頂きました。学校関係者評価委員の方々は学校・企業・保護者等の立場から、本校が気付かない様々なご意見を、専門分野における経験と見識を以てご指摘くださいました。

質疑応答の中では、本校の取り組みの苦勞をご理解のうえ、各学校関係者の組織におけるご苦勞もお伝えいただき、情報を共有することが出来ました。

今後は、学校関係者からご指摘を受けた部分、特に評価ポイントが低い項目について、内容を精査し、次年度の教育重点項目として自己点検を実施し、改善に努めてまいります。

4. 学校関係者評価委員会議事録

4-1 2022年度(令和4年度)第7回学校関係者評価委員会 議事録

基準1(教育理念・目的・育成人物像)

竹谷	「ホスピタリティ・マインド」とは何かを「サービスホスピタリティ」という授業で教えている。学生がホスピタリティを感じることを、提供できることは何かを考える授業で、最終的に「ホスピタリティ・マインドの体現」に繋げていくことを考えながら授業を行っている。
渡辺隆	PCに対応する授業は出来ているが、スマホを使った授業がまだまだ出来ていないので、就職担当の高島が、トラベル学科の学生に色々な取り組みをしています。スマホをどのように対応していくかが今後の課題となる。
園辺	旅行業は現在も厳しい状況が続いていて、3割位しか戻っていない。コロナの第8波も来ており、引き続き厳しい状況が続くのではないかと。 旅行業だけでは経営できないので、市区町村の入札案件での仕事が増えてきている。 旅行業については顧客ニーズに沿いながら需要を喚起していく。
久保	園辺様と同じく、旅行業は現在も厳しい状況が続いて、人材派遣業のようなBPO案件が中心で収益を得ている。旅行業は手数料商売なので剥離多売である。 営業店舗を閉めていて、直営店では全国で29店舗のみ営業している。 人からWEBへのニーズの移行が増えてくると予想され、その能力の開発が必要と思われる。
青野	私の会社(テック航空サービス㈱)は、親会社が東洋エンジニアリングのインハウス・エージェントの子会社で売上は内部の出張手配が3割で外部が7割を占めている。オンライン接客で来店はお断りしている。
加藤	観光全般に関することでは、全国旅行支援が始まり、少しずつではあるが観光業が動き出している。アンケートを実施したところ「旅行に行かなくてもいい」層が増えてきており、また観光に従事する人材が減少している状況から、改めて旅行・観光は日本の基幹産業であることを理解してもらうことを進めています。育成人材像としては、観光の本質的な意義を理解してもらわないと「ホスピタリティ」が提供できないので重要である。
筒井	専門学校に進学する生徒は電子情動的なことを志望する生徒が多く、観光業を目指す生徒が減ってしまった感じがする。観光の役割や楽しさなどを専門学校の立場として発信してもらいたいので特色ある学びができると思うので、アフターコロナにおける観光のあり方などを学生に教えていただきたい。育成人材として、研修旅行への課題→課題解決→プランニング→研修への実践という流れも素晴らしい学習です。
鈴木	息子が本校を卒業して旅行会社に就職して、小学校の校外授業を手配する部署に配属された。学校としては行かせたい場所があっても施設側で人数が多くて受け入れてくれないなど制限があり、現実は大変な様子。旅行支援の申し込みも、高齢者はWEBでの申し込みは難しく、店舗に行かないと予約ができないなど運用がうまくいっていない点も見られた。様々な場面が現実には出てくるだけに、学校では、就職した際に臨機応変に対応できる基礎訓練を徹底して卒業させてほしい。

高島	旅行業の在り方が変わるということで、前期授業でスマホを使った動画の編集授業を8回実施し、普段見ている動画をビジネス目線でどのように見たら良いかを授業を行った。旅行業界で働く社会人として、動画の広告に対して評価ができる人材を育成したい。
(検討事項)	アフターコロナを意識して、情報機器の活用は、パソコン技術やインターネット活用方法に重点をおいた教育を行う必要がある。

基準 2 (学校運営)

塚原	【2-3】事業計画 今年の募集状況はコロナの影響が出て、観光業の就職が厳しいなどのマスコミ報道もあり、学生数が減ってきている。特に留学生の渡航ができなかった影響が大きい。 よって、事業計画を斬新なものに取り組むには、収支を見ながらの慎重な計画が必要と考える。
渡辺千	【2-7】情報システム 学校システムについては 2021 年度に大きく修正した。今年度からはシステム改訂にお金をかけずに職員が使いこなせるようレクチャーすることを進めていく。
塚原	各企業において改善していることなど、事業計画をお伺いしたい。
久保	コロナ禍で観光業に不安を抱くのは働いている我々だけでなく学生も肌で感じていると思います。コロナが収束し、日常が戻った時に選ばれるよう観光業の改善努力次第だと思います。現時点では、システム投資が減り、基幹システムの改定を3年延期した。新規採用も見送られ、事業計画に大きな支障が出ている。
園部	2023 年の新規採用はストップされ、2024 年は検討中。攻めが難しい。赤字部門の整理やテーマパークの売却など、コンパクトにして財務状況を改善して反転攻勢の準備をしている。
青野	2023 年の新規採用はしていない。
塚原	業界全体を俯瞰して今後の展望をお伺いしたい
加藤	宿泊業界は人員整理をしていて、他業界に優秀な人材が流れている。 成長産業である観光業界が働く意欲を持った学生に選ばれ、育て行かなければならない。 コロナの波によって予約のキャンセルがあり、見通しは難しいが、行動制限をしない、感染の分類を2類から5類に変更するなどの議論があり、感染に対する認識が軽減されるのであれば、観光に対する動きが活発になってくるのではないかと。来年春頃にはコロナも収束するのではないと思う。
渡辺隆	中学・高校に協会として旅行の意義をアピールしていただきたい。
加藤	観光教育は重要だと思っている。今年度から小学生に対して観光教育をしっかりとやって行くために、事例地域を選定して、観光の意義や役割を紹介して行くことをやっている。 観光の教育副読本を作成して、全国の関係ある学校に配っている。底辺からの観光の教育、理解促進に努めている。

(検討事項)	【2-3】 できる限り無駄を省き、収入に見合った事業運営を継続する。 【2-5】 新旧交代ができるよう、ベテランは若手に直接指導できる体制を整える。 【2-7】 限られた改修経費の中で、システム改訂にお金をかけずに職員が使いこなせるようレクチャーすることを進めていく。
--------	---

基準 3 (教育活動)

南	【3-9】教育方法・評価等 多種多様な検定試験を実施しているが、何故、検定試験を受験しなければいけないのか、検定試験の役割が学生に浸透していないことが課題になっている。専門学校の学生は大学生に比べ、早い段階から専門性が高いことを要求される。各検定試験の合格率を高めるために、内定合格者掲示の欄に合格した検定試験を記載し、各業界の就職に有利なことを積極的に見せていくことが必要と思われる。例えば TOEIC で何点取れば、就職の際に目に留まるのか、お教えいただきたい。
園部	TOEIC の点数はあまり意識していないが、600点以上でないと履歴書に書いても意味がない。面接をしていると800点以上の人もいるので、英語だけで採用する感じではないので、採用心理としてはTOEIC の点数によっての有利不利はない。 自分の武器として英語の能力を伸ばしたいという意思がないと伸びないのではないかな。
南	アマデウス検定を合格している学生は、就職試験に有利になるのでしょうか。
園部	学習努力の証として差別化になると思います。専門学校の強みになるのではないかな。
久保	専門学校での資格取得は学習の土台作りとして有効であり、自己研鑽の成果として自信になる。
筒井	どのような検定を推奨し、学生が資格取得のメリットを自覚させ取り組ませ、結果を残すことは簡単ではないと思います。本校も高校生に対し英検を受験するような指導をしているが、受験する意義を理解させることが課題である。
青野	自分が本校に在籍していた頃を考えても資格取得の重要性を理解し、勉強に向かわせることは難しいと思うが、気持ちが前向きな入学した早い時期に理解し、対策を講じる必要を感じます。
塚原	パソコン検定は要求されることはあるのか。
加藤	観光振興協会としてはパソコン検定のスキルは求めているが、業務上、パソコンは必須のスキルになっているので、Word、Excel、PowerPoint の知識は必要。 英語については、TOEIC の点数は意識していないが、国内観光の振興を図っていくには、インバウンドのお客様に頼らざるを得ないので、英語力がないと誘致に繋がらないので、英語力を高める教育が必要と思われる。
鈴木	息子はアマデウス検定の資格をもっているが、就職した部署では別のシステムを使っているようなので、資格を持っている方が良いとは思いますが、就職した会社によって変わってくると思う。学生からしてみたら、どんな資格を持っていたら良いか分からないので、最終目標を設定していないと勉強しても身に付かないのではないかな。

(検討事項)	【3-8】就職における検定試験の取得の意義と就職後の意識づけをおこない、担任は学生の学習状況を把握し、目標数値を掲示する。 【3-11】国内観光の振興を図る意味から、インバウンドに対する英語力がないと誘致に繋がらない為、実践的な英語力を高める教育が必要。
--------	---

基準 4 (学修成果)

高島	【4-13】就職率 今年の傾向として、シティホテルの就職が格段に増えた。採用を止めていたブライダル企業が採用を再開したため、リストアップの幅が広がった。学生によっては他業種も視野に入れる指導も必要。全体の就職率は約95%になっていて、徐々にコロナ前の状況に近づいている。
久保	コロナ禍において、高い就職率だと感じております。 異業種にも目を向けて就職に繋げているので、先生方の努力が窺える。 就職内定すると資格試験の意欲が薄れることは当然のことだと思う。 弊社は今年、人事制度が変わり社員全員に資格取得の指示があり、昇格するには資格をとらないと次のステージに進めないルールが決まった。就職をしたから資格は必要ないということではないことを学生に教えて欲しい。就職を目指す会社でどのような資格が必要か、情報を集め資格を目指すことも必要ではないか。資格としては TOEIC、旅行業務取扱管理者、ミドルステージになると IT パスポート検定とビジネス会計検定2級の資格取得が必要となるので、学生の資格取得の意欲になればと思います。
塚原	この学校の情報処理ソフトの PC 環境の状況は
大野	Word、Excel、PowerPoint は装備されていて、卒業するまでには使いこなせるようになる。
鈴木	息子は総合旅行業務管理者試験に合格できなかった。仕事に影響があったかは定かではないが、基礎教養として中学・高校で学んでいた事項のレベルアップも必要ではないか。
(検討事項)	【4-13】他業界も視野に入れる学生は限定的な為、学生と担任や就職担当が相談の上、様々な就活スタイルを提案していく。 【4-14】2年生は就職内定すると資格取得の意欲が薄れ、合格率が上がらない傾向にあるので、就職後の昇格を視野に資格取得の必要性を説明する時間を設定する。

基準 5 (学生支援)

南	【5-21】卒業生・社会人 同窓会は8月と3月に年2回役員会を実施している。奨学金を支援していて、校友会費の中から経済的に厳しい学生に15万円を支給している。3年に一回程度開催している懇親会は感染防止の観点から 2022 年より中止している。就職フォローとして、同窓会の役員による相談会を検討している。
青野	今の時代、個人情報も厳しいので、卒業生との繋がりは難しい。
筒井	同窓会の組織化はどこの学校でも難しいところです。本校は地元で活躍している同窓生とのコネクションがあり、学校の教育活動をサポートしていただいている。子弟を入学してもらう

加藤	支援制度もある。卒業生との繋がり重要である。
久保	学生時代に築いた人脈は、将来にわたって大変重要です。特に、企業等の中核人材になった際には学生時代の人脈が必要になることが多々あります。そうした観点を学生に伝えていくことも大切だと思います。
(検討事項)	【5-21】卒業後の追跡調査については、現時点で効果的な手法が見つけられていない。転職が多い観光サービス業の特徴もあり、卒業後の追跡が難しくなっているため、SNS を活用し卒業生との繋がり方を検討していく。

基準 6 (教育環境)

漆原	【6-22】設備・施設等 レストラン実習室に電子レンジを1台増設して、学生の利便性を高めた。 最低限の法定点検・定期点検を実施している。補修・改修については財務状況などを考慮し、優先順位を付けて年度ごとに予算を立てて実施をしている。
加藤	見た限りでは、しっかり取り組まれていると思う。
竹谷	【6-24】防災・安全管理 全学科、指定の避難場所である、「六義園」に年1回授業で実際に歩いて場所を確認しております。
納屋	教職員も座学で実施しており、今後は実際の避難訓練のような具体性のあるものを実施してまいりたいと思います。
漆原	避難訓練を実施する際には、所轄の消防署に避難訓練計画を連絡している。
鈴木	池袋防災館の課外実習は全学科で取り入れてることも検討してみてもいい。
渡辺隆	【6-23】学外実習・インターンシップ等 コロナ禍の影響を受け、旅行会社の企業実習は受け入れがほとんどない状態になっていたが、10月からは1年生に限ってですが全員が企業実習に参加することが出来ている。企業様からは3月までご了解を頂いておりますが、来年4月以降についてはコロナの感染状況にもよりますが、基本的には継続でお願いする方向で考えております。
(検討事項)	コロナウイルス感染が収束した場合、隣接する施設管理組合と連携し、防災訓練に教職員も参加することも義務づけていきたい。

基準7(学生募集と受入れ)

納屋	【7-25】学生募集活動 オープンキャンパス等の募集イベントをライブで年間40回以上実施し、10月末現在での来校率は昨年比で約93%でありました。ホテル学科は100%以上の来校者がありましたが、トラベル学科は60%の来校者であった。 Instagramについては昨年に比べて投稿数を増やしており、動画を交えたInstagramを作成している。留学生クラスの方でも新たにInstagramを立ち上げ、学生が日々の学びや生活を日記風に綴るというコンセプトでアップさせていただいている。 TikTok が主流になりつつあるようだが、一般企業として活動はされておられますか？
園辺	TikTok はしていない。Instagram、Facebook、LINE、YouTube を行っている。 TikTok は企業向きではないと思う。
久保	お客様に関しては、LINE のお友達登録をしてもらい情報発信もしている。YouTube に関しては企業の視聴回数が少ないこともあり、力をいれていない。TikTok はしていない。高校生対象の入学募集の観点からは効果があると思うが、企業目線では TikTok は見ないので、趣旨が違うと思う。情報発信は定期的に行った方が良いと思う。入学生へのアピールの場ではなく、学校のアピールの場として活用する。
筒井	SNSを使った募集活動の多様化は良い方法と思います。学生参加型の情報発信が高校生に届けられると良いですね。
加藤	コロナ禍において観光業界が敬遠される傾向が強くなっているように思います。観光は我が国の成長産業と位置付けられており、今後の我が国の経済活動にとって重要な役割を担う観点から、卒業生や在籍生から後輩に対し、情報発信し、募集に繋げる工夫が必要と思われます。
塚原	新型コロナ感染で留学生の入国制限が続き、入国制限緩和後日本語学校に入学する為、2024 年度から志願者が増えると予想される。
(検討事項)	【7-25】 学内の活動が見れる素材をInstagramなどにタイムリーに掲載し、フォロワー数の拡大を図る。留学生に対しては、例年出願してくる日本語学校を重点に情報収集を行い、募集営業を図る。

基準8(財務)

納屋	【8-28】昨年までは健全な状況であったが、若干苦しくなっている。 節電などを踏まえ経費節減に務めるが、更に厳しくなることが予想される。
大野	特に電気代の高騰が大きいので巡回する、担当者を決めて空き教室などの電気を消して回っている。
漆原	電気の使用量などを数字で比較できるような見える化をしていきたい。
塚原	企業様の方で電気代など工夫されていることはありますか。

加藤	節電は最重要課題として挙げているが、使用していない部屋の電気を消す、エアコンの設定温度を調整する。節電以外では、ペーパーレス化を進めていくなど、出来ることからやっている。
(検討事項)	削減できる部分は削減してきているが、都度チェックして、業務に支障のない範囲で経費節減を行っていく。

基準 9 法令等の遵守

納屋	【9-34】学校評価 入学時アンケートなど、学生からのアンケート収集を有効に活用したり、外部有識者、企業、高校の先生、保護者の方からご意見を戴き、それを踏まえた上で活動をして参りたい。
大野	年2回、学生から授業アンケートを実施しており、内容は各授業の先生、教務関係、就職関係、学校全般について聞いている。
納屋	【9-35】教育情報の公開 ホームページに掲載するなど公表をさせていただいている。今後も踏襲していきたい。
筒井	文部科学省から情報公開するよう求められている。 学校の良さを授業評価の数値など示し、アピール出来るようなものにしていただきたい。
(検討事項)	引き続き、様々な方からご意見を聞き、できる事項に対して改善に努めていく。

基準 10 社会貢献・地域貢献

納屋	【10-36】社会貢献・地域貢献 社会や地域貢献については、コロナ感染症の拡大があっても変わらない。 3年ぶりに校内のイベントを徐々に再会する方向である。 実現したことで、留学生のコースが巣鴨警察署と協力し、チラシ配りに参加した。 また、ホテル学科の学生が地域の公民館でハロウィンのお祭りに参加した。 学校としてはそのような取り組みを行っております。
鈴木	コロナ禍で難しい面もあるが、地域・老人クラブや障害をもつ方々の旅行等を計画されているところもあると思うので、そのプランをつくるお手伝いなど検討してみたい。
竹谷	トラベル学科としては、巣鴨という場所に専門学校があることの在意義をアピールすることを踏まえ、目的をしっかりと確立してから地域・社会貢献をしていきたい。
(検討事項)	【10-36-1】社会貢献、ボランティア活動について、コロナが収束した場合には、無理のない範囲で、出来ることから始める。

4-2 学校関係者評価委員会は第7回にて評価完了とし、第8回は開催しない。

以上